

桜の花もすっかり葉桜になってしまいましたが、今年も桜は見事に咲いてくれました。

桜は眺めて「ため息が」出る花です。他の花も美しくて綺麗なのですが、日本人にとって桜の花は特別な木のような気がします。やまゆりではそんな桜に変わり、ツツジやハナミズキが咲き、お山の木々にも新芽が息吹、筍も生えてきて、春爛漫を感じさせる頃となりました。

新学期が始まり約1ヶ月が過ぎ、子どもたちも新しい環境に少しずつ慣れてきて保育室、園庭やお山で楽しく遊ぶ姿を見て大変嬉しく思っています。

さて5月には、「子どもの日」がありますが、そもそもは「端午の節句」といいその由来は、「端」は「始め」という意味で、「午」は「五」に通じ、「端午」で「五月初めの五日」という意味となります。

端午の節句の風習の由来は、中国東周時代の政治家「屈原くつげん」を供養するために始まり、三国志の時代に日本へ伝わったとされています。古く端午の節句は、邪気を祓うために、菖蒲（しょうぶ）や蓬（よもぎ）を軒にさす風習があり、この風習はやや変化し、現代では粽（ちまき）や柏餅を食べたり、菖蒲湯をたてたりというふうになんげつ変化していきました。江戸時代以降、端午の節句は「男子の節句」とされ、武家で甲冑（かっちゅう）や幟（のぼり）を飾ったことにならい、町人も武者人形や刀などを飾り、鯉幟（こいのぼり）を立てるようになったそうです。

まもなく連休、そして「こどもの日」を迎えます。家族でいろいろと楽しいことを計画されているご家庭も多いことと思いますが、体調を崩さぬようにして楽しいゴールデンウィークをお過ごし下さい。